

八木町の大堰川にコハクチョウ 11 羽が越冬のために飛来しました。丹波地域に姿を現すのは珍しく、年初めに八木町鳥羽で確認された後、亀岡市千代川町などでも確認され、1 月末に再度八木町に飛来。グレーがかった幼鳥を連れ、潜ったり羽繕いをしたりする姿は愛らしく、同町鳥羽の田村耕作さんは「大堰川でコハクチョウを見たのは初めて」とうれしそうに話されていました。南丹市では下水道などの整備を進め、「里川」的な自然環境が取り戻せつつあります。今後さらに水洗化の向上に努め、水鳥が羽を休められる水質環境を守っていきます。



▲川の上流に移動する 11 羽のコハクチョウ

## 「大堰川の水面に映る白い姿きらり」

(1/24 八木町山室の大堰川(桂川) 左岸から撮影)



▲勢いよくスタートする参加者(ロードレースの部)

南丹市八木運動公園をスタート・ゴールとする「大堰川ジョギング大会」がNPO法人八木町スポーツ協会の主催で開かれ、210人が力走。ロードレースの部と、ファミリージョギングの部があり、参加した西村愛美さん(八木中2年)は「しんどかったけど、沿道の応援がうれしかった」とすがすがしい笑顔で話していました。レース後は、みず菜や九条ねぎなど地元野菜を酒かすで味付けした「大堰川なべ」が振る舞われました。JA京都八木女性部の滝野かつ子さんは「日本の伝統的な味を子どものころから舌で覚えてほしい」と愛情を込められていました。



▲心と体をあたためる大堰川なべ

## 「心も体もあたたまる冬の風物詩」

(1/31 大堰川ジョギング大会)

## 「みんなの夢や希望天高く舞い上がれ」

(1/15 南丹そのべとんどまつり)



▲やぐらに点火する佐々木市長ら

しめ飾りや書き初めなどを燃やし、今年1年の無病息災や字の上達を願う「とんど焼き」が市内各所で行われました。この日は南丹市商工会園部支所主催の南丹そのべとんどまつりが園部公園スポーツ広場で開催。園部幼稚園4歳児や近隣住民らおよそ300人が、約7メートルあるやぐらが勢い良く燃え上がる様を見守りました。

会場では主催者がぜんざいや甘酒を無料で振る舞ったほか、今回初めて「京・来て観て丹波の会」が猪汁を提供。参加者は冬の味覚に舌鼓を打っていました。